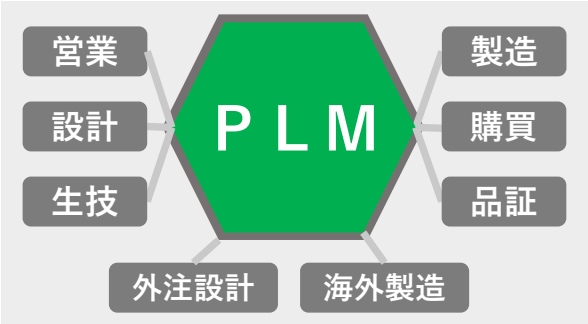
HITACHI

# 設計“正”を起点に
# 製造まで途切れないデジタルスレッドへ

## 【QCDの出発点】
## 唯一無二の「情報の源泉」を確立する

### 属人化しやすい設計リスクを見える化、
### 過去トラ・知見を“設計資産”として再利用




PLMツール：「Windchill」「mcframe PLM」「Hi-PerBT PLM」

製品開発のQCD（品質・コスト・納期）を
フロントローディングで最適化するには、
設計資産を「マスタデータ」として管理する
基盤が不可欠です
PLMにてCADやBOMへと情報連携し、
信頼できる唯一のデータソースを構築します
（Single Source of Truth）

## 付帯業務を削減し、そして「攻めの設計」へ・・・

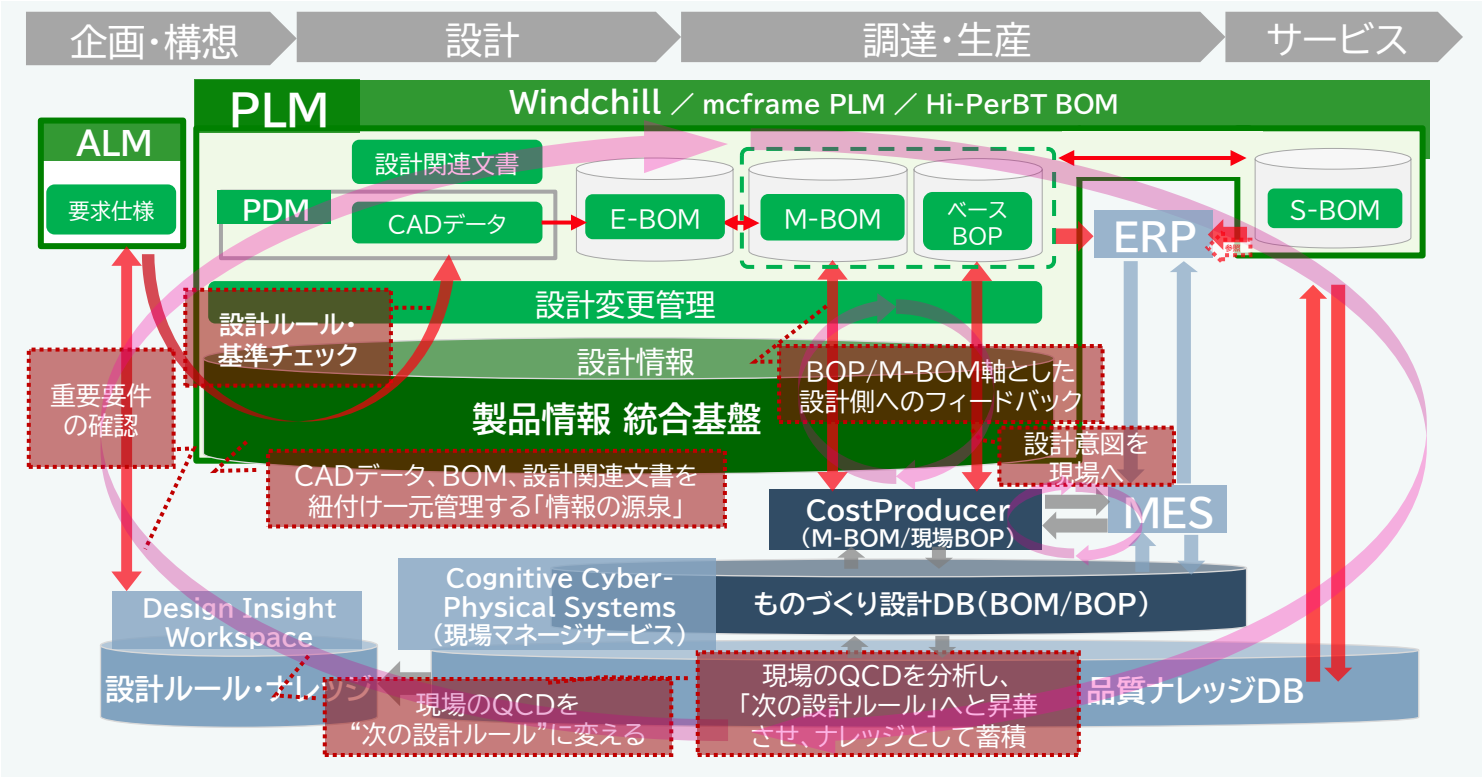
**1. BOM自動生成とトレーサビリティ**
CAD構成からE-BOM（設計部品表）を自動生成。CAD、E-BOM、へと至る
変更履歴を自動で紐付け、確実なトレーサビリティを確保します

**2. CAD-EBOM-MBOM連携による手戻り防止**
設計（E-BOM）から製造（M-BOM）へのシームレスな展開により、
設計・製造間の確認工数を削減。設計変更の影響範囲を素早く正確に
把握し、製造側へ連動させ、下流工程での致命的な手戻りを防止します

**3.「攻めの設計」を実現する環境**
データ検索や整合性確認といった付帯業務を大幅に削減。
過去のトラブルシューティングや知見を「設計資産」として再利用し、
設計者が本来のミッションである企画・開発業務に注力できる環境を提供します

## 生成AI時代のものづくり設計基盤　～ 設計“正”が揃って初めてチェーンが繋がる ～

ＰＬＭにて、設計情報マスタ管理、設計変更管理を実現し、製品情報統合基盤として確立し **設計の“正”を下流へと確実に届ける** ための土台をつくります。そのうえで、BOP/M-BOMを軸に上流～下流を繋ぐ設計・製造フィードバックループを構築し、**上流でのQCDつくり込みのデータ利活用**を可能とします。




## ＰＬＭ 導入企画サポート　～ ＤＸの「何から手をつけるか」問題を解決 ～

製造DXの推進には、技術的な導入以上に「業務プロセスの再定義」と「社内合意」が鍵となります。**現状把握からロードマップ策定まで、コンサル視点でトータルサポート**します

| 工程 | 課題例 | サポート例 |
|---|---|---|
| 現状把握 | ・業務フローが未整備／更新されていない | ・業務ヒアリング<br>・**業務フロー整理** |
| 課題抽出 | ・ボトムアップの課題があることは認識しているが、構造化できていない、手の付け方がわからない | ・課題ヒアリング<br>・**課題構造整理** |
| 対応方針策定 | ・課題が抽出できても、計画的に対応することができない | ・課題優先順位付け<br>・**課題対応ロードマップ作成** |
| 施策概要立案 | ・施策立案に向けた情報収集の時間がない<br>・参考となる他社の業務のやり方に関する情報がない | ・**施策概要整理**<br>・事例紹介／新業務フロー立案 |
| | ・施策を立案しても社内で承認が得られない | ・**効果試算**<br>・社内向け資料作成 |

※本リーフレット中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、 ®マークは表記しておりません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。 ※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。 ※本リーフレット中の情報は、作成時点のものです。

**株式会社 日立ソリューションズ**
www.hitachi-solutions.co.jp

本リーフレット掲載商品・サービスの詳細情報
www.hitachi-solutions.co.jp/plm/

2026.10

© Hitachi Solutions, Ltd. 2026. All rights reserved.